桐が谷通信

CHUBU GAKUIN UNIVERSITY
CHUBU GAKUIN COLLEGE

第７３号　　２０２６年６月１０日

発行　中部学院大学　中部学院大学短期大学部　宗教委員会　〒501-3993　岐阜県関市桐ヶ丘二丁目１番地　TEL（0575）24－2211

人生いばらの道、されど宴会

高木　総平（岐阜済美学院宗教総主事・中部学院大学宗教主事）

本号の最終ページに「お知らせ」がありますように、7月の学生さん対象の宗教講演会では、柴橋正直先生（岐阜市長）が講演をしてくださいます。その内容は、「人生は山あり谷あり」ということで、「失敗のすすめ」ということがテーマです。失敗ではありませんが、「山や谷」ということでは、病気、時にがんに罹った人たちの苦しみを考え、この講演会の翌週にもたれる教職員対象（看護学科学生の一部も参加）の研修会に、「がん哲学」という考えを提唱し、がんの患者さんたちを支援している樋野興夫先生（順天堂大学名誉教授）を講師としてお呼びします。そのお考えをここでは紹介し、がんの患者さんを支えるということを考えたいと思います。私自身のことでいうと、かつて父をがんで亡くしましたし、最近ではかつて勤めた松山東雲中学高校でとても親しかった同僚を亡くしました。またこの原稿を書き始めた時、同校に勤めた35年前、とても前向きで優秀な生徒だった教え子が二年間の闘病生活の後、先日亡くなったという知らせが届きました。これまで多くの知人や教え子ががんで亡くなり、またがんを抱えて生きている友人も何人かいます。国民に二人に一人が罹ると言われていますから、大人だけでなく、子どもや若い人たちにとっても関係ないとは言えません。そのような中でこの樋野先生は貴重な大きな働きをされています。

先生によると、がんを告知された人にとっては「人生の大地震」であり、「これまでの価値観ではとらえきれない現実にうろたえてしまう」ということでありますが、先生は「『病気』であっても『病人ではない』という持論」に立っておられます。そもそもがん研究者や政治学者の教えから「がん哲学」を提唱され、その方々や宗教者の偉大な先人たちや聖書の言葉を紡いで、そして先生ご自身の言葉でもって患者さんたちに語り、支え、生きる意味を共に考えていくものです。先生は言葉の処方箋と言われています。先生は、大学病院では初めて「がん哲学外来」を始められ、全国で「がん哲学カフェ」などを開催し、その支援の輪はどんどん広がっています。その紡がれた朱玉のような言葉の中から一つ紹介します。『いい覚悟で生きる』（2014）からです。「がんで苦しんでいる人でも、一瞬たりともがんのことが頭を離れないというわけではなく、親しい人の顔や好きな音楽、書物などの一節を思い浮かべたり、趣味のことを考えたりしているのではありませんか。あるいは、これまで受けてきた親切や思わずほほえんでしまうような出来事を思いだしているかもしれません。これらを反芻して、しばし鼻歌交じりの気分に浸るひととき、これが心の宴会なのです」そして「この宴会をできるだけたくさん持ってください」と言われています。周りの無理解により落ち込んでいた患者さんにこの言葉を伝えると微笑んだという話があります。それが「人生い

ばらの道、されど宴会」という言葉なのです。これは旧約聖書箴言 15：15 をアレンジしたものです。

このような先生の働きや言葉を知ってください。そして自分のこととしても肉親や友人のこととしても、がんに罹った人とどう関わるか考えてください。

参考：先生の著書『がん哲学』『がん哲学外来へようこそ』『人生を変える言葉の処方箋』

がん患者さんを支えるということ～看護師の立場から～

苅谷　三月（看護リハビリテーション学部　看護学科　准教授）

私は、がん看護専門看護師として、緩和医療チーム、がん相談、がん看護外来を通して、がん患者さんとご家族の支援に携わってきました。医療の現場では、治療だけでなく、診断時の不安や生活の変化、将来への戸惑いなど、患者さん一人ひとりがさまざまな思いを抱えながら過ごしています。私は、その思いに耳を傾け、その人が大切にしていることを尊重する支援を大切にしてきました。印象に残っているのは、診断早期の高齢女性との関わりです。診断や治療方針の説明の場面では、医師は主に娘さんに向けて話し、娘さんもまた患者さんの方を見ずに医師と話を進めている様子が気になりました。私はあえて患者さんご本人と目線を合わせて話を伺いました。すると、「あなたが初めて私に向き合ってくれた」と話され、一人の人として向き合うことの大切さを改めて実感しました。

また、副作用のつらさから治療中断を考えていた患者さんには、その苦しさと「本当は孫の成長を見たい」という思いを医師に伝え、治療調整につなげました。後日、笑顔で近況を報告してくださり、患者さんの声を医療に反映させることの大切さを感じました。

終末期の支援では、４年間継続して関わってきた若年のがん患者さんがいます。不安が非常に強く、「自分で考え、納得して選びたい」という思いを尊重し、療養の場として在宅を選択されました。亡くなる前日まで不安の相談を受け、在宅という選択が本当にこの方にとって最善だったのか、緩和ケア病棟という選択肢の方が安心につながったのではないかという問いは、今も私の中に残っています。しかし、状態の変化や想像とは異なる現実の中で、揺らぎや迷いを抱えながら共に考え続けた過程そのものに、看護としての意味があったのではないかと感じています。

人は揺らぎながら選び、生きています。その揺らぎは、その人が何を大切にしているかという価値観の表れでもあります。その揺らぎを否定せず、ともに考え続けることこそが、がん看護の大切な役割だと考えています。

がん患者さんの「その人らしい生活」を支えるために
― がんリハビリテーションと理学療法士の役割 ―

三川　浩太郎（看護リハビリテーション学部　理学療法学科　教授）

近年のがん医療は、 がんそのものを治療するだけでなく、患者さんが病と向き合いながらも、「その人らしい生活」を続けられるよう支える方向へと変化しています。治療成績の向上や高齢化を背景に、がんは「治す病気」であると同時に、「ともに生きる病気」として捉えられるようになりました。

一方で、がん患者さんは、倦怠感、しびれ、痛み、息苦しさなど、さまざまな身体的苦痛を抱えることがあります。また近年では、がん患者さんにおけるサルコペニアやフレイルも重要な課題とされ、歩行や食事、外出など、日常生活に大きな影響を及ぼします。

このような中で重要な役割を担っているのが、「がんリハビリテーション」です。理学療法士は、身体機能や運動能力を評価し、患者さんの状態に応じた運動療法や生活支援を行います。現在では、手術や抗がん剤治療の後だけでなく、診断直後から体力低下を予防し、治療に備える「プレハビリテーション」も注目されています。例えば、手術前には、呼吸トレーニング、歩行練習や自転車エルゴメータなどの運動療法を行い、体力の維持や術後合併症の予防につなげます。さらに、治療中の活動性維持や症状緩和、終末期や在宅療養での生活支援まで、切れ目のない支援が求められています。

また、「自分の足でトイレに行きたい」「住み慣れた家で過ごしたい」といった患者さんの願いを支えることも、理学療法士の大切な役割です。それは、単に身体機能の改善を目指すだけではなく、その人の尊厳や希望を支える営みでもあります。理学療法士は、多職種と連携しながら、患者さんやご家族に寄り添い、「その人らしい生活」を支えています。

がん医療の現場は、私たちに「人を支える医療」の大切さを教えてくれます。一人ひとりの価値観や生活背景に目を向け、一人ひとりをかけがえのない存在として尊重する姿勢は、医療だけでなく、これからの教育においても大切にしたい視点です。

2026年度　宗教講演会
「ピンチは飛躍のチャンス」

講 師 ： 岐阜市長　柴橋　正直 先生

日　時：7月6日（月）　11：10 ～12：20
（第２時限の講義は行いません。）

会　場：関キャンパス　11301 講義室

私たちの人生は山あり谷ありです。

私自身にも これまで様々な山や谷があり、葛藤を重ねながら今に至っております。
そんな私が、これからの日本を担っていただく若い皆さんに伝えていることの一つが「失敗のススメ」です。

なぜ「成功のススメ」ではなく、「失敗のススメ」を敢えて説くのかと思われるかもしれません。

今の世の中は、「良い成績を残さないといけない」「テストで良い点数を取らないといけない」「何事もうまくやらないといけない」など、「成功しなければ！！」というプレッシャーを自分自身にかけている人が多いようです。

そのために、うまくいかない自分を好きになれなかったり、成績が上がらない自分を否定的に捉えてしまいがちです。

しかし、私たちの人生では、成功よりも失敗から学ぶことの方が遙かに大きいのではないでしょうか。
社会へ飛び出す前の学びの場であるこの大学で、安心して挑戦し、失敗をも経験して頂きたいのです。
私自身も失敗の連続を経験しています。

その経験をお伝えし、その経験から得たものをお話するとともに、失敗で心が折れるような苦しみの時に、大きな力となる「CALLING」についても触れながら、皆さんのこれからの人生のエネルギーになるような時間にしたいと考えております。

◆プロフィール

柴橋（しばはし）　正直（まさなお）

【役　職】 岐阜市長

《経　歴》

- 1979 年 7 月 3 日　京都市生まれ
- 1998 年　3 月　岐阜県立岐阜高等学校 卒業
- 2002 年　3 月　大阪大学文学部 卒業
- 2002 年　4 月　株式会社ＵＦＪ銀行 入行
- 2004 年 10 月　株式会社ＵＦＪ銀行 退行
- 2009 年　8 月　衆議院議員 就任
- 2018 年　2 月　第 21 代岐阜市長 就任
- 2022 年　2 月　第 22 代岐阜市長 就任（2 期目）
- 2026 年　2 月　第 23 代岐阜市長 就任（3 期目）
  現在に至る